

私たちが日常経験する様々な現象は、経済や社会というより抽象的で大きな存在を理解するときのメタファー（隠喩）として使われる。たとえば、「1960年代の日本は青春期の若者のようであったが、現在の日本は60歳か70歳前後である」と、日本経済を人間の年齢にたとえることによって、全体の流れを大きくつかめるような気がする。

## 伊藤元重の ニューズな見方



もうろん、所詮は暗喩であるので、間違った解釈を与えることにも注意なくはない。人間は歳をとれば必ず死ぬが、日本経済や社会は消滅することはない。60年代と今日を比べるときに、人間の一生とい

うメタファーは分かりやすく、ルギーがたまっていくと、突然それが断層を動かした大きな地震になるという。私を考えると、このメタファーはあまり役に立たない。さて、今回の東日本大震災をきっかけに私たちに鮮明な印象を与えた現象がある。それは活断層のメカニズムだ。地中には異なった地層が重なる場所（断層）があるが、極めて近い時代まで地殻運動を繰り返し、今後もおお活動する可能性のある断層のことを活断層というようだ。そこにエネ

ルギーがたまっていくと、大きな断層ができており、そこにはたまったエネルギーがある。政府の債務は膨れあがっている。金融危機を起している。高齡化も進んでいる。フォールト（断層）というタイルが、金融危機を理解させようという役割に立っている。政治悪化が私たちの生活を直撃している。しかし、国債市場に何も問題が起きていないし、財政悪化が私たちの生活を直撃している。いつ地震が起きてもいい。いつ地震が起きてもいい。いつ地震が起きてもいい。

また、日本経済の問題をみることは興味深い。シカゴ大学のラグラム・ラジャン教授の『フォールト層のメタファーが有用かもしれない。その典型的な例は財政問題である。90年代重要だ、震災で経済が大変な時期に消費税を引き上げた。その時点ではすでに時遅いのである。（東大大学院 経済学研究科教授）

# 財政に地殻変動の可能性

## 頓挫繰り返す再建策

\*二の記事・写真等は日本経済新聞社の許諾を得て転載しています。

最近のリポート (<http://www.nira.or.jp/pdf/1101report.pdf>) では、破綻した国の事例を紹介しているが、問題は突然やってくる。その時点ではすでに時遅いのである。

（東大大学院 経済学研究科教授）